

安曇野 レインボウ通信

ぼうざぶろう
増田望三郎の
市議活動だより

Season 3
2022年夏号 第33号



みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政や議会が市民にとって身近になるために、虹 (= Rainbow レインボウ) の架け橋となるような議員活動をしていきます。望三郎の活動はブログやフェイスブック、インスタでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

●プロフィール
大分県出身 53 歳。東京経由で安曇野に移住し 19 年目に。三郷小倉に妻と子ども、妻の両親の 3 世代で暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿(ちきゅうやど)』を経営。安曇野市議 3 期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』

巻頭言 2つの地域課題

私の暮らす安曇野の三郷小倉地域に、みなさんに知ってもらいたい2つの課題があります。1つは北小倉にある民間事業者の廃棄物処理施設の問題です。近隣住民への騒音、振動、粉じんなど生活を脅かす問題。死亡事故や火災などの安全管理の問題。そして一番心配なのは、施設の処理水、汚水の地下浸透の可能性です。我われ安曇野市民は飲み水は地下水を使っていますし、水は安曇野が古から受け継いできた貴重な宝であり、それを次に引き継いでいかなければなりません。北小倉の方たちを中心に住民運動が展開され18年目になります。住民運動の一つの手段として、裁判にも訴えています。業者を訴えた民事裁判は、先頃の松本地方裁判所の判決は棄却となりました。判決の内容は、住民への生活被害は著しいものではないという内容。私も原告団の一人で、住民からなる原告団は高等裁判所に控訴しました。また業者へ操業許可を与える立場の市や県に許可取り消しを求めている行政裁判も、高等裁判所での判決が9月に出されます。裁判ではこちらの主張がことごとく退けられていて、大変残念ですが、それでも抗(あらが)い続けなければ、業者施設の本丸とも言える堆肥処理施設まで稼働するでしょう。堆肥

処理施設が全面稼働すると、汚泥などが持ち込まれ、それに対する化学薬品処理などで、近隣への悪臭被害やダイオキシン発生など新たな問題が起こる可能性が高まります。



▲東京高裁傍聴の原告団

もう1つは南小倉にある市の黒沢洞合自然公園の隣地に計画されている太陽光パネルの課題です。この課題に取り組んで1年半が経ちました。この計画を進める兵庫県の事業者は、安曇野市の土地利用条例に基づき、申請を進めており、4月には最大のヤマ場とも言える公聴会が行われ、事業者と反対する住民とが意見を述べ合いました。公聴会では防災、環境、住民の民意、公園、景観、電磁波など様々な観点から住民は反対理由を述べ、受け答えをする業者のトーンも最後は落ち気味だったように感じました。最終的には土地利用審議会という市の審議会で、この申請を認定するか否かを審議し、市長が決定をします。結果はもう少し先になりますが、何とか不認定の結果を勝ち取りたいものです。

現在洞合公園自体は用地拡張と更なる利活用を検討する会議が行われています。自然公園の活用とパネル建設は真逆の行為です。自然公園の豊かな利活用が計画され、それを市民のみなさんとも汗を出して実行していきたいと考えています。廃棄物処理施設も洞合公園の活用とパネル問題も、一地域で起こっていることですが、いずれも安曇野全体の課題・取り組むテーマとして、これからも尽力していきます。

オンライン活動報告会のお知らせ

有志議員による合同の議員活動報告会をオンラインで開催します。市民のみなさんとの意見交換も行います。ぜひご参加ください。以下のQRコードよりアクセスしてください。参加予定議員) 小林純子、橋本裕二、増井裕壽、増田望三郎
日時：7月15日(金)
夜7時30分～9時30分
(途中入退室OK)
場所：オンラインで



市議会報告会のお知らせ

安曇野市議会による議会報告会が7月23日(土)午後3時～市役所4階大会議室で行われます。今回は実会場とオンラインでの参加ができます。オンライン参加の方は右のQRコードにアクセスしてください。



サポーターからの応援メッセージ 32



しまだ まゆみ
島田真弓さん

(豊科/MIGRANT)

安曇野に移住して4年、MIGRANTという会社を立ち上げ、設計事務所と民泊、

シェアハウス(以下SH)等を運営しています。望さんとの出会いは、まだ駆け出しの頃にセルフビルドの活動に興味を持ってきて、その後餅つき大会に参加してくれたのが始まりです。遠い存在に思っていた議員さんが、移住したばかりの私たちの活動に興味を持ってくれたことに驚き、会ってみて、その気さくさと私たちのような若輩者に対しても敬意と親しみを持って話してくれること、わざわざ出向いてくれたことに感動しました。私たちがSHを始めた時、既にSHを運営していた望さんが、安曇野のSH運営者たちの集いを企画してくれました。当時コロナでリモートワークが一般化してきた状況で、それぞれSH需要の高まりを感じていて、情報交換しながら人を紹介し合って、安曇野に住みたい人を少しでも多く受け入れたいという気持ちの共有と流れを創ってくれました。望さんはいつも私たちの意見を真剣に聞いて、それを活かし、人の縁を繋げて良い方に進化させてくれる人だと思います。望さんに出会って初めて、私も市民として少しでも安曇野の未来に関われるような気がしました。安曇野に望さんがいてくれてよかったです。これからもずっと応援します!

6月定例会の一般質問

《質問1》 医療的ケア児とその家族が輝ける人生になるように

【解説】

医療技術の進歩に伴い、出生時に疾患や障がいがあり、これまでは亡くなっていた命を救うことができるようになりました。人工呼吸器による呼吸管理、痰（たん）吸引などの医療行為を日常に必要とする「医療的ケア児」は令和元年の推計値で全国で2万人を超えています。安曇野市によると3歳以下は6人、公立子ども園には1人、小中学校には7人の子どもさんが通園・通学しています。

医療的ケア児の多くは、親が仕事を辞め、24時間子供に付きっきりにならざるを得なくなります。また子ども園や学校での受け入れ体制は不十分で、国は医療的ケア児支援法を昨年9月に施行し、医療的ケア児とその家族への支援は国と自治体の責務であると明記し、社会全体でサポートしていくことが法的に明確になりました。今回の質問では市による支援の強化を訴えました。

望市議 医療的ケア児が24時間診療体制のある病院から退院し、在宅での家族生活に移行する際、市から家庭に働きかけはあるのか。

行政 状況に応じて家庭訪問し、必要な情報提供を行う。精神的ケアを含め、個別の支援を行っている。各乳幼児健診の対象時期に地区担当保健師が保護者へ連絡し、お子様の様子や生活状況、困り事がないか伺っている。

望市議 医療的ケア児の日常生活への支援は。市の障がい福祉サービスは医療的ケア児を受け入れる体制や内容になっているのか。

行政 今、一番の課題だと考えている。看護職員や介護職員などがいる事業所が少ない現

状がある。事業所の体制の見直し、スタッフ等の養成がこれからの課題になってくる。

望市議 医療的ケア児支援法の施行でどのような取り組み強化があるのか。医療的ケア児支援のコーディネーターが必要ではないか。

行政 医療的ケア児のライフステージ、また病状に応じ、主治医をはじめ関係機関の多職種チームアプローチで連携支援する必要がある。障がい保健福祉圏域ごとに医療的ケア児支援推進連絡協議会が設置された。圏域でコーディネーター設置の協議を進める。

望市議 医療的ケア児の親たちによるピアサポートの活動が立ち上がっている。当事者たちを孤立させないためにも、市はどう関わるか。

行政 当事者の希望や地域の実情を把握するとともに、保健師がどのような関わりができるかを一緒に考えていきたい。



▲県の医療的ケア児支援センター訪問

MTBコースの利用！

安曇野市は今年度マウンテンバイク（MTB）コースの運営を始めました。場所は堀金のほりで〜ゆーの奥にある啼鳥山荘（ていちょうさんそう）周辺の里山です。私も2回体験しましたが、新緑の里山はとても気持ちよく、コースもとても楽しかったです。太田市長は、「安曇野をアウトドアの聖地に」という発言をしています。市の新たな観光アクティビティとしてもMTBを推していきたいです。みなさんもぜひ体験してみてください！

陳情「常任委員会のインターネット配信について」は不採択に！

委員会のネット配信について、全員協議会等で県内他自治体議会の事例を視聴したり、安曇野市議会でもどのような見え方になるかを試しましたが、本会議場の配信と比べて遜色があり、技術・設備面での対応が必要でした。その対応ができるまでは中途半端な状態で配信はすべきではないというのが反対者の意見でした。しかし、まずは録画配信からスタートし、リアルタイム配信への準備を進めていくためにも、本陳情を採択して、議会の意志、更なる開かれた議会であろうとする我々の意志を市民に示すべきでした。残念ながらまだそこを超えられない本市議会です。

映画「夢みる小学校」の自主上映会を安曇野でも！

映画「夢みる小学校」を見ました。この映画は一人一人の個性を大切にした子どもをまん中にした学校づくりをしている3つの小中学校を紹介したドキュメンタリー映画です。この映画で取り上げられた南アルプス子どもの村小学校（私立）は、私の娘も中学卒業まで5年間通っていました。子どもの自主性や主体性に重きをおいた「先生たちが待てる」学校でした。一方、公立学校の取り組みとして、長野県の伊那市立伊那小学校や東京世田谷区の桜ヶ丘中学校が紹介されています。多くの子どもが通う、言わば「本丸」とも言える公立学校をいかに子どもをまん中に置いた学校にしていけるのか。教育委員会、校長や先生などの現場、そして保護者や地域の大人たちと議員の立場からも考えていきたいです。そのキッカケとして秋に自主上映会を開催する予定です。一緒にやってくれる実行委員メンバーを募集しています。

